

【緑地を楽しむ本】

『万葉と令和をつなぐアキアカネ』

山口進 写真・文

岩崎書店



そういえば、最近赤とんぼをみないなあ～。本を手にとったのはそんな気持ちもあったからでしょう。本文にも日本中で赤とんぼが激減していると書いてあります。

ところが、新潟県のある田んぼには、毎年数え切れないほどの赤とんぼが羽化しているのだそうです。え、どうして？ 他の田んぼとどこが違うのだろうか？ そんな気持ちで著者はその田んぼを訪れます。

有機栽培の常蔵さんの田んぼはまず土が違います、米ぬかなどを混ぜ、堆肥を入れて微生物がわくような土造りをしてきました。田んぼには生き物があふれかえり、ますます土を栄養価の高い土

にしてくれます。でも、それだけでしょうか？

他の田んぼを見ると、羽化の時には水が無く、ヤゴが干からびて死んでいました。有機農法の田んぼでは水切りの時期が少し遅く設定されていて、トンボが無事羽化できたのです。常蔵さんは最後のトンボの羽化が終わるまで水切りを見合わせているそうです。

アキアカネが少なくなっても気にしない人がほとんどかもしれません。でも、狭い地球上で多くの生き物が、棲む環境や食べるものなどを別々にして一緒に暮らしているのです。その生き物たちは互いにどこかで関係をもっています。

「みんな手をつないでいるんだ、仲良く暮らそうよ」常蔵さんはトンボにそう語りかけているようです。
(小川)